

# 平成27年度 森林動物研究センターシンポジウム

## －開催報告－

### 1) 来場者数

228名

### 2) アンケート結果（一部抜粋）

#### 2-1) 各内容に関するコメント

##### ①ヨーロッパにおけるイノシシ管理

- ・狩猟がコントロールの重要な影響があると分かった。
- ・日本との類似点が多く、驚いた。
- ・同様の問題を抱えており、驚いた。問題の共有化が必要だと思う。
- ・オオカミの影響より、冬季の気温が影響することに驚いたが、納得した。

##### ②アメリカにおける野生化したブタの対策と管理体制

- ・日本の狩猟のあり方について示唆的だった。
- ・ハンターの数が多く居るため、頭数コントロールが可能かと思ったが、移動される問題などバスフィッシングの様だと感じた。
- ・法律による規制、避妊、殺処分、毒殺など、管理の仕方が進んでいる。
- ・外来種管理の難しさを理解した。

##### ③韓国ソウルにおけるイノシシの出没の現状と課題

- ・韓国のイノシシの大きさに驚いた。
- ・ソウルと神戸の環境が似ていると感じた。韓国で実施している（都市部での）対策や政策について詳しく聞きたかった。
- ・街中での警察の銃の取り扱いについて興味をもった。
- ・日本の取組（Japan model）を推奨して下さった言葉に感激した。

##### ④六甲山におけるイノシシ管理の現状と提言

- ・餌付けが良くないことが良く分かった。
- ・都市に出没するイノシシに対する対応の仕方を考えることの大切さを感じた。
- ・何が起きていて何をすべきかが良く分かった。
- ・市民意識を変えるためのキャンペーンをどう展開していくかが大切では。

##### ⑤パネルディスカッション

- ・各国の野生動物への意識なども知ることができ、勉強になった。
- ・不人気の施策でも必要なことは実施する。
- ・各国共に科学的根拠に基づいて人々に理解してもらう事（人への教育）の重要性を感じた。

## 2-2) 次回以降に取り上げて欲しい内容、テーマ

- ・野生動物の管理（全般）について（16件）  
人材育成や法整備、捕獲体制、分布拡大、都市・農村部それぞれにおける共存など  
また、海外事例の紹介。
- ・外来種問題について（13件）  
外来種について。現状や生態系被害、対策について。海外の動物との付き合い方など。
- ・ツキノワグマについて（7件）  
北海道の研究者からの現状紹介など。
- ・ニホンジカについて（10件）  
具体的な対策方法や現状紹介など。
- ・ニホンザルについて（4件）  
深刻化する農業被害、生活被害について。
- ・捕獲した動物の有効活用について（2件）

## 2-3) その他シンポジウムに関する意見

### ①シンポジウムに関する意見

- ・今後も国際シンポジウムを実施してほしい。
- ・もう一步踏み込んだ意見がききたかった。

### ②研究、その他意見

- ・生息環境に関する情報が少ない。イノシシにとって生息しやすい環境とは本当なのか？
- ・今後とも、世界と日本の比較を行ってほしい。特に、「採る」と「食す」について。
- ・色々な研究テーマを知らせてほしい。
- ・マスコミ等と協力し捕獲・殺処分に理解を得られるように広報すべき。
- ・狩猟や被害対策等に関する人材育成を行い、地域に合わせた対策を行うことが急務である。

### ③感想

- ・海外の取組を知れて勉強になった。
- ・日本だけの問題ではないと知れて有意義なシンポジウムだった。
- ・各国でデータや考え方が違うこと、国が違って色々な考え方で興味深かった。
- ・世界の獣害（イノシシ）の状況をしることができた。どこの地域でも被害防除、個体数管理、生息環境管理を組み合わせ対応することが有効であることが分かった。